

令和 6 年 6 月 25 日現在

機関番号：23901

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2023

課題番号：17K02421

研究課題名(和文)独吟百韻分析による宗祇連歌の多面的新研究

研究課題名(英文)A Multifaceted New Study of Sogi's Linked Verse through the Analysis of His Solo-Composed Hyakuin

研究代表者

伊藤 伸江 (Ito, nobue)

愛知県立大学・日本文化学部・教授

研究者番号：30259311

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：宗祇の自撰句集『宇良葉』を主な研究対象とし、そこに存する三種類の宗祇独吟百韻の分析を行い、宗祇特有の語句、歌枕などの使用法を見出して宗祇の文学的特質を論じ、序文や左注の検討から、宗祇の信仰と文学の関係を考究した。『宇良葉』の新伝本の検討と紹介もなした。さらに、宗祇の連歌の、北陸や東海における江戸時代の享受・流布状況へと研究を発展させ、小松天満宮別当能順の事蹟研究や、称名寺本『老葉』注の内容研究をなした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本中世において、主要な詩歌としての地位にあった連歌に関し、最も著名で影響力を持った連歌師である宗祇の独吟を分析することで、宗祇の文学作品の特質を明らかにすると共に、それによって連歌文学全体の特質をも把握することができた。また、江戸期における宗祇連歌の地方伝播や享受の研究は今まであまりなされておらず新しい。江戸期の東海北陸地方における宗祇連歌の流布や享受の研究をすることで、江戸期地方文芸における連歌の再生の様相を明らかにし、近世の主要な詩歌である俳諧と連歌の併存状況や両者間の影響関係の把握につながる新たな視野をもたらすことができた。

研究成果の概要(英文)：The research focuses on Sogi's self-selected collection of poems, "Uraha," as the main subject. It analyzes three types of Sogi's solo-composed hyakuin (100-verse sequences) found in the collection, identifying Sogi's unique usage of phrases and utamakura (poetic place names). This analysis is used to discuss Sogi's literary characteristics. By examining the preface and annotations, the relationship between Sogi's faith and literature is explored. The study also introduces and examines newly discovered manuscripts of "Uraha." Furthermore, the research expands to investigate the reception and dissemination of Sogi's linked verse (renga) in the Hokuriku and Tokai regions during the Edo period. This includes researching the achievements of Nojun, the chief priest of Komatsu Tenmangu Shrine, and studying the content of the annotations in the "Wakuraba" manuscript in the collection of Shomyo-ji Temple.

研究分野：人文学

キーワード：連歌 独吟百韻 宗祇 宇良葉 老葉注 能順

1. 研究開始当初の背景

宗祇(1421~1502)は、連歌・和歌・古典研究・紀行文などに多岐にわたり多大な業績を残し、とりわけ連歌を中世詩としての高みに引き上げた、連歌界の巨人である。宗祇自身が研究対象として非常に大きな存在であり、これまでの宗祇研究は、主としてその生涯を概観して年譜を作成し、年譜から生涯のある時期の指標となる大きな作品を選び論ずる形ですすめられてきた。例えば、伊地知鐵男『伊地知鐵男著作集 1 宗祇』(平成 8・汲古書院、初版昭和 18)や、金子金治郎『宗祇の生活と作品』(昭和 58・桜楓社)、島津忠夫『連歌師宗祇』(平成 3・岩波書店)、奥田勲『宗祇』(平成 10・吉川弘文館)などである。宗祇の前半生には出自・事跡などの謎が多くあり、後半生では様々な分野で膨大な作品を生みだしていることから、伝記研究も非常に困難で、廣木一人『連歌師という旅人 宗祇越後府中への旅』(平成 24・三弥井書店)、『室町の権力と連歌師宗祇 出生から種玉庵結庵まで』(平成 27・三弥井書店)のように、生涯のある時期を区切り対象とした書もあるが、伝記に関しては、研究の余地がいまだ多く残されている状況であった。

宗祇の文学的な事蹟については、宗祇参加の百韻・千句が江藤保定『宗祇の研究 資料編』(昭和 42・風間書房)に、古典文庫『千句連歌集』(四~七、昭和 57~60)に宗祇参加の千句が収録されていた。また、句集は、岩波文庫『宗祇発句集』(昭和 28)、古典文庫に『萱草』(昭和 25)・『下草』(昭和 53)・『老葉』(昭和 28)、『貴重古典籍叢刊 宗祇句集』(昭和 52・角川書店)が存した。近年は、国際日本文化研究センターの連歌データベースに加え、『連歌大観第一巻』(平成 28・古典ライブラリー)に、『宗祇百句』『萱草』『老葉』『下草』『自然齋発句』が入り、さらに新しく概観できる素地が、整ってきていた。こうした宗祇の句集をもとにその連歌表現の研究を進めたものとして両角倉一『宗祇連歌の研究』(昭和 60・勉誠社)がある。

しかし、宗祇の参加した作品に対する注釈は、古来名作と名高いものを選んで注した日本古典文学大系『連歌集』(昭和 35・岩波書店)、日本古典文学全集『連歌俳諧集』(昭和 49・小学館)、新潮日本古典集成『連歌集』(昭和 60・新潮社)、奥田勲『日本の古典 歌論 連歌論 連歌』(昭和 57・ほるぷ出版)、金子金治郎『宗祇名作百韻注釈』(昭和 60・桜楓社)などがある程度で、彼の作品の多さに比すればごくわずかしかならないと言って良い状況であった。

2. 研究の目的

1のような状況下、中世文学史上稀有な達成を示した連歌作者宗祇の文学的特質を深く考究し、明らかにしていくことをこの研究の目的とした。

その際に、研究代表者がこれまで積み重ねてきた心敬研究で得られた、宗祇に対する心敬の影響に関する知見を生かしつつ、両者の相互影響関係を意識し、作品読解の中で検証していくこととした。歌人としての名声をも求め、古今伝授に至る宗祇であるが、彼が二条派歌学、なかんずく東常縁に依った意識も、冷泉派である正徹・心敬の和歌の研究、また心敬の影響が著しい兼載の連歌論研究により相対化できるものである。

以上のような意識を持って、宗祇の自撰発句集『宇良葉』に存する三つの独吟百韻の訳注を試みた。これらの百韻は、それぞれ足利將軍家の連歌始に初参する直前に詠まれた『春日左抛御前法楽百韻』、『新撰菟玖波集』編纂開始直前の時期に詠まれた『夢想之連歌百韻』、『新撰菟玖波集』の完成と、自らの後を継いで北野連歌会所宗匠となった兼載が連歌本式を新しく定めた、二つの出来事の直後に詠まれた『本式連歌百韻』と、宗祇の人生の重要な局面の折々に詠まれており、それらが『宇良葉』に入れられた意味は非常に重要である。にもかかわらず、この三つの百韻に関しては、研究は進んでいない(両角倉一氏「『独吟本式何人百韻』の表現」(同氏前掲書所収)、金子金治郎氏「宗祇の謎-『宇良葉』三百韻を読む-」(平成 8・『国語と国文学』)論があるにすぎない)。それゆえ、それぞれの百韻の解説を伝記研究と関連させてなし、そこから自撰句集の捉え直しをなして多くの論点を考えていくことを具体的な目標とした。

3. 研究の方法

宗祇の自撰句集『宇良葉』に存する三つの独吟百韻を主たる研究対象とした。宗祇の師である心敬は、自らの発句や付合に自注を付けることで兼載ら弟子を指導したが、宗祇は自らの独吟百韻を模範として示すことで、弟子に連歌の指導をしたと考えられるからである。

そもそも、独吟百韻が付されている『宇良葉』は、発句集、すなわち宗祇自身の句だけを集成している句集である。連歌の撰集としては異例の、宗祇個人の文学作品の作品集であり、付合を集に収めないことで、前句に入り込む他人の句作意識を完全に排除した形の集と考えられよう。自身の発句の秀句、独吟百韻の中の優品を選抜して入れるということは、発句の部では、一座の張行において百韻の顔となる句を範として示すことであり、独吟百韻三種の方では、百韻の流れを全て自身で差配するとこのような百韻の流れになるという、その理想の形を示すことになる。さらに、『宇良葉』の発句群にはかなり多くの詞書が付されて、その結果宗祇の動静が語られている。独吟百韻には、宗祇自身が左注や序において成立事情を述べている。ここからも、句集全体の形式が、宗祇の自伝をも語る意識的な選択であることがはっきりとわかり、句集が宗祇独自の文学を研究するにふさわしいものであるとわかるのである。それゆえ、孤本とされている『宇

良葉』に関して、伝本を広く探すと共に、また個別の独吟百韻の伝本調査をもなし、百韻の本文検討もしながら、訳註をなして行く形をとった。

百韻のうち、『春日左抛御前法楽百韻』については、独立伝本(大阪天満宮文庫蔵本、天理図書館本、北海学園大学北駕文庫蔵本、小松天満宮文庫本、東大国文学研究室本等計八本)の調査をなし訳註を進めると共に、百韻末尾左注に記された室町將軍家連歌会への初参加を前にしての法楽意図を分析するため、百韻を奉納した春日若宮神社末社の左抛明神及び明神勧請元とされる猿投神社(愛知県)の調査・研究をなした。

長享三年(1489)に夢想発句を得て翌年に完成させた『夢想之連歌百韻』については、この百韻の独立伝本(大阪天満宮文庫本、天理図書館本、書陵部本、小松天満宮文庫本、北海学園大学北駕文庫本、早大伊知地文庫本等計十五本)を調査し、『春日左抛御前法楽百韻』より十三年の後の作品であり、心敬から離れ独自の作風を持ち始めた点に着目し訳註を進めると共に、長文の自序の分析もあわせ行った。

第三番目の明応五年(1496)に成った『本式連歌』は、宗祇について北野連歌会所奉行の任にあった兼載による『連歌本式』の制定と、新たな式目による、兼載主導の連歌の張行(明応二年(1493)、於清水寺、兼載、宗祇、肖柏、宗長ら連衆)を意識した作品であり、この作品と比較する観点をもちながら、百韻の進行分析をし、独立伝本(正宗文庫本、大阪天満宮文庫本(長松本・南曲本)、急雨亭文庫本、静嘉堂文庫本等八本)の調査をなし、全てには至らなかったが、訳註をなした。

なお、宗祇の百韻が弟子たちに連歌の詠み方を教えるための模範例となっていることに着目すれば、宗祇の高弟たちによる、宗祇連歌の享受と理解がいかなるものであったのかが追究されねばならない。そこから、宗祇連歌は後代にどのように継承され伝えられていったのかも、新たな研究目標として浮かび上がってくる。本研究をなしていくうちに、江戸期の宗祇連歌の伝来と再生という、新たな研究の見通しが立ち、『宇良葉』や『老葉』注に着目した、北陸や東海地方の連歌研究にも及んで行ったことを申し添える。

4. 研究成果

(1) 宗祇自撰句集『宇良葉』に関して

『宇良葉』は、これまで孤本とされていたが、高岡市立中央図書館の清水家文書中に『宇良葉』の一本(高岡市立中央図書館本)があることがわかり、原本の調査をなし、櫻井本と比較検討し、櫻井本とは直接の書承関係のない伝本であると結論した。加賀前田家領内での宗祇連歌書の伝播に関して知見を得ることができ、伝本比較の論と翻刻を発表した。

(2) 『春日左抛御前法楽百韻』に関して

『宇良葉』所収『春日左抛御前法楽百韻』に関して、百韻全体の訳註をなした。注釈を通して、古今集、万葉集などから宗祇が引き、特有の用い方をする語句を抽出でき、さらに三島千句との語句・表現の類似、近い時期の千句である表佐千句との類似などの特徴を見出すことができた。こうした特徴は、後の連歌界を宗祇流に染めていく宗祇連歌のあり方を論ずる際の指標になると思われる。

さらに、この百韻の伝来については、『明応八年宗祇独吟何人百韻』と一具の形を持つ伝本である小松天満宮文庫本の調査をさせていただき、速詠である『春日左抛御前法楽百韻』は、完成まで長時間をかけた『明応八年宗祇独吟何人百韻』と一組で、弟子たちの稽古・学習用に伝えられたことが確認でき、『明応八年宗祇独吟何人百韻』研究に新たな視点を加えることができた。

また宗祇の伝記研究の一環として、『春日左抛御前法楽百韻』製作事情の説明の左注を検討し、春日社末社左抛社に関しては、これまで考えられてきた猿投明神ではなく、春日社・興福寺との直接の関係を持つ吉野の佐抛社と考え、その祈念の内容も、將軍の前途を祈念したのではなく、將軍の恩恵を受けた自らの幸いを発句に詠んだと結論した。

(3) 『夢想之連歌』に関して

『宇良葉』所収『夢想之連歌』に関して、長文の序と百韻全体の訳註をなした。まず、序や和歌を付す形式による、百韻伝本の分類を考察し、さらに神詠の形を取る夢想の発句に強く反映された宗祇の住吉明神信仰、「山の心」などの宗祇の特徴的な文学表現、「やは」「かは」といった反語における独特の用法、歌枕の使用法などを見出だし、百韻末尾六句が祝言に向かわず無常観をたたえた詠風となっている点に宗祇連歌の独自の文学性を認めた。

(4) 『本式連歌』に関して

『宇良葉』所収『本式連歌』に関して、八種類の伝本との校異を取り、百韻の訳註を一部なした。式目として宗祇の時代に一般的ではない本式を使用した点も検討し、賦物を第三まで賦したと結論した。特に難解な発句については、本百韻詠出(明応四年正月九日)は、『新撰菟玖波集』の完成直後であり、詠出直前の正月四日に『新撰菟玖波集作者部類』を献上し得ており、自作に後土御門天皇の勅点を得る計画の最中でもあることから、人生の達成を満足感のうちに詠む句ととらえた。

(5) 宗祇連歌の江戸時代における享受・流布・再生に関して～北陸地方～

加賀・越中など北陸における宗祇連歌の伝播については、北野天満宮宮仕であり、小松天満宮の初代別当も務めた能順の調査研究を進め、その動向を追い、事蹟を年譜の形で示した。能順は小松における連歌の発展に重要な役割を果たしているが、彼が、元禄十七年の宗祇『老葉』の刊行に関わったのみならず、北野天満宮での宗祇忌日連歌会の開催や推進をなし、宗祇二百年忌にも深く関わったことも論文において示し、能順年譜と合わせ拙著『室町期和歌連歌の研究』(2023・新典社)第三部第四章に収めた。

(6) 宗祇連歌の江戸時代における享受・流布・再生に関して～東海地方～

東海地方において、宗祇の高弟宗長による『老葉』宗長注の一形態と思われる伝本が愛知県碧南市の時宗寺院称名寺に伝わっており、この称名寺蔵本(称名寺本)は、時宗三十三世満悟上人筆との極めを持つ、宗門の重要書と思われる本である。調査の許可をいただき、研究をなした結果、称名寺本は、連歌の句の本文系統が宗訊本系統であり、そこに宗長注の一系統が付されていると結論できた。加えて時宗総本山遊行寺が蔵する『老葉集』と比較することで、称名寺本の成立に至る経緯を推定し、連歌師兼載筆とされる本が遊行寺と近い位置にあったという関係にも注目した。拙著『室町期和歌連歌の研究』(2023・新典社)第三部第二章に執筆した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 15件）

1. 著者名 伊藤伸江・奥田勲	4. 巻 23号
2. 論文標題 櫻井本『夢想之連歌』訳注(三)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 愛知県立大学大学院国際文化研究科論集(日本文化専攻編)	6. 最初と最後の頁 pp.67-pp.97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15088/00004887	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤伸江・奥田勲	4. 巻 13号
2. 論文標題 櫻井本『夢想之連歌』訳注(四)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 愛知県立大学日本文化学部論集	6. 最初と最後の頁 pp.229-pp.273
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15088/00004850	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤伸江・奥田勲	4. 巻 12号
2. 論文標題 櫻井本『夢想之連歌』訳注(二)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 愛知県立大学大学院国際文化研究科論集(日本文化専攻編)	6. 最初と最後の頁 pp.85-pp.107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15088/00004502	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤伸江・奥田勲	4. 巻 21号
2. 論文標題 櫻井本『春日左抛御前法楽独吟百韻』訳注(五)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛知県立大学大学院国際文化研究科論集(日本文化専攻編)	6. 最初と最後の頁 pp.25-pp.55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15088/00004290	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤伸江・奥田勲	4. 巻 11号
2. 論文標題 『春日左抛御前法楽独吟百韻』の伝来—報告と考察—	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛知県立大学日本文化学部論集	6. 最初と最後の頁 pp.137-pp.155
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15088/00004278	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤伸江・奥田勲	4. 巻 11号
2. 論文標題 櫻井本『夢想之連歌』訳注(一)付翻刻	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛知県立大学日本文化学部論集	6. 最初と最後の頁 pp.117-pp.135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15088/00004277	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤伸江	4. 巻 6号
2. 論文標題 連歌師能順年譜稿上	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛知県立大学文字文化財研究所紀要	6. 最初と最後の頁 pp.35-pp.85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15088/00004264	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤伸江	4. 巻 68号
2. 論文標題 連歌師能順年譜稿下	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛知県立大学説林	6. 最初と最後の頁 pp.21-pp.72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15088/00004256	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤伸江	4. 巻 68号
2. 論文標題 能順の宗祇追慕－能順年譜を手掛かりにして－	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛知県立大学説林	6. 最初と最後の頁 pp.1－pp.19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15088/00004255	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤伸江・奥田勲	4. 巻 10号
2. 論文標題 櫻井本『春日左抛御前法楽独吟百韻』訳注(三)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 愛知県立大学大学院国際文化研究科論集(日本文化専攻編)	6. 最初と最後の頁 pp.185-pp.223
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15088/00003852	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤伸江・奥田勲	4. 巻 10
2. 論文標題 櫻井本『春日左抛御前法楽独吟百韻』訳注(四)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 愛知県立大学日本文化学部論集	6. 最初と最後の頁 pp.111-pp.140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15088/00003914	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤伸江・奥田勲	4. 巻 67号
2. 論文標題 高岡市立中央図書館本『宇良葉』の研究と翻刻	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 愛知県立大学説林	6. 最初と最後の頁 pp.13-pp.56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15088/00003902	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤伸江・奥田勲	4. 巻 9号
2. 論文標題 「春日左抛御前法楽独吟百韻」訳注(一)付翻刻	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 愛知県立大学日本文化学部論集	6. 最初と最後の頁 pp.63-pp.85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15088/00003487	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤伸江・奥田勲	4. 巻 9号
2. 論文標題 「春日左抛御前法楽独吟百韻」訳注(二)付「春日の末社左抛」考	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 愛知県立大学大学院国際文化研究科論集日本文化専攻編	6. 最初と最後の頁 pp.45-pp.65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15088/00003462	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤伸江	4. 巻 72号
2. 論文標題 『宇良葉』所収『本式連歌』訳注(一)	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 愛知県立大学 説林	6. 最初と最後の頁 pp.1-pp.28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15088/0002000205	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計2件

1. 著者名 伊藤伸江	4. 発行年 2023年
2. 出版社 新典社	5. 総ページ数 510
3. 書名 室町期和歌連歌の研究	

1. 著者名 奥田 勲	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 381
3. 書名 連歌史 中世日本をつないだ歌と人びと	

〔産業財産権〕

〔その他〕

伊藤伸江・奥田勲科研費基盤研究(c) https://ito-okuda-kaken.jimdo.com

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分 担者	奥田 勲 (Okuda isao) (90007948)	聖心女子大学・現代教養学部・名誉教授 (32631)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------